



復活を目指す渡り鳥のモビールを手作り

～科学館イベントでシジュウカラガンの復活プロジェクトをPR～

東北緑化環境保全（仙台市、社長 山形安生）は 5 月 24 日、仙台市科学館で開催された国立科学博物館巡回展「ダーウィンを驚かせた鳥たち」の関連イベントとして、「シジュウカラガンと渡りをしよう ～シジュウカラガンのモビールを作り、ガンの群れと飛びながら、ふるさと千島のエカルマ島をめざそう～」をテーマとした「シジュウカラガン復活プロジェクト」PR ブースを出展した。

シジュウカラガンはかつて仙台市や多賀城市周辺の水田に多数越冬していた渡り鳥。同イベントでは、シジュウカラガンという鳥のこと、その絶滅の危機から復活に向けた歴史を来場者に伝え、地域の自然環境が持つ価値について理解を深めてもらう機会となった。

ブースでは、シジュウカラガンの飛ぶ姿をイメージしたモビールの工作体験のほか、東北緑化環境保全の最新 DX 技術「エコロジカル・ランドスケープデザインシステム（Eco-Lan：エコランシステム）」を活用した VR（バーチャルリアリティ）体験を提供した。

モビールは、東北緑化環境保全 環境調査部の菅原果歩さんが本物のシジュウカラガンを観察してデザインしたもの。完成後にひもを引くと、翼が動いてまるで飛んでいるかのような姿が再現される。完成させた子どもたちからは、「かわいい」「翼が動いて面白い」といった声が寄せられた。子供たちと一緒に参加した保護者からも「姿がうつくしい」「リアルな姿に驚いた」といった声が聞かれた。工作体験はおよそ 1 時間という限られた時間で行われたが 106 名の家族連れで賑わった。

VR コーナーでは、体験者自身がシジュウカラガンの群れの一員になって湿地で羽を休める様子の観察や、空を飛ぶ疑似体験を通して鳥の視点を体感。体験者からは「本当に空を飛んでいるようだった」「かわいらしい姿に癒された」といった驚きや感動の声が寄せられた。

「シジュウカラガン復活プロジェクト」は 2022 年度から始まった取り組みで、東北緑化環境保全をはじめ日本雁を保護する会・学校法人仙台育英学園が協働して進めている。シジュウカラガンが飛来する風景を未来につなぎ、共に生きる心を育むことを目指し、シジュウカラガンの勉強会や観察会のほか、呼び戻すための政策提案シンポジウムの開催、地域の方々との交流会など、様々な情報発信活動などにも取り組んでいる。

以上

〔添付写真〕

（1～3 枚目）モビールをデザインした東北緑化の菅原さんが来場者に作り方を説明

（4～5 枚目）「エコランシステム」で来場者がシジュウカラガンの群れの一員となり観察



